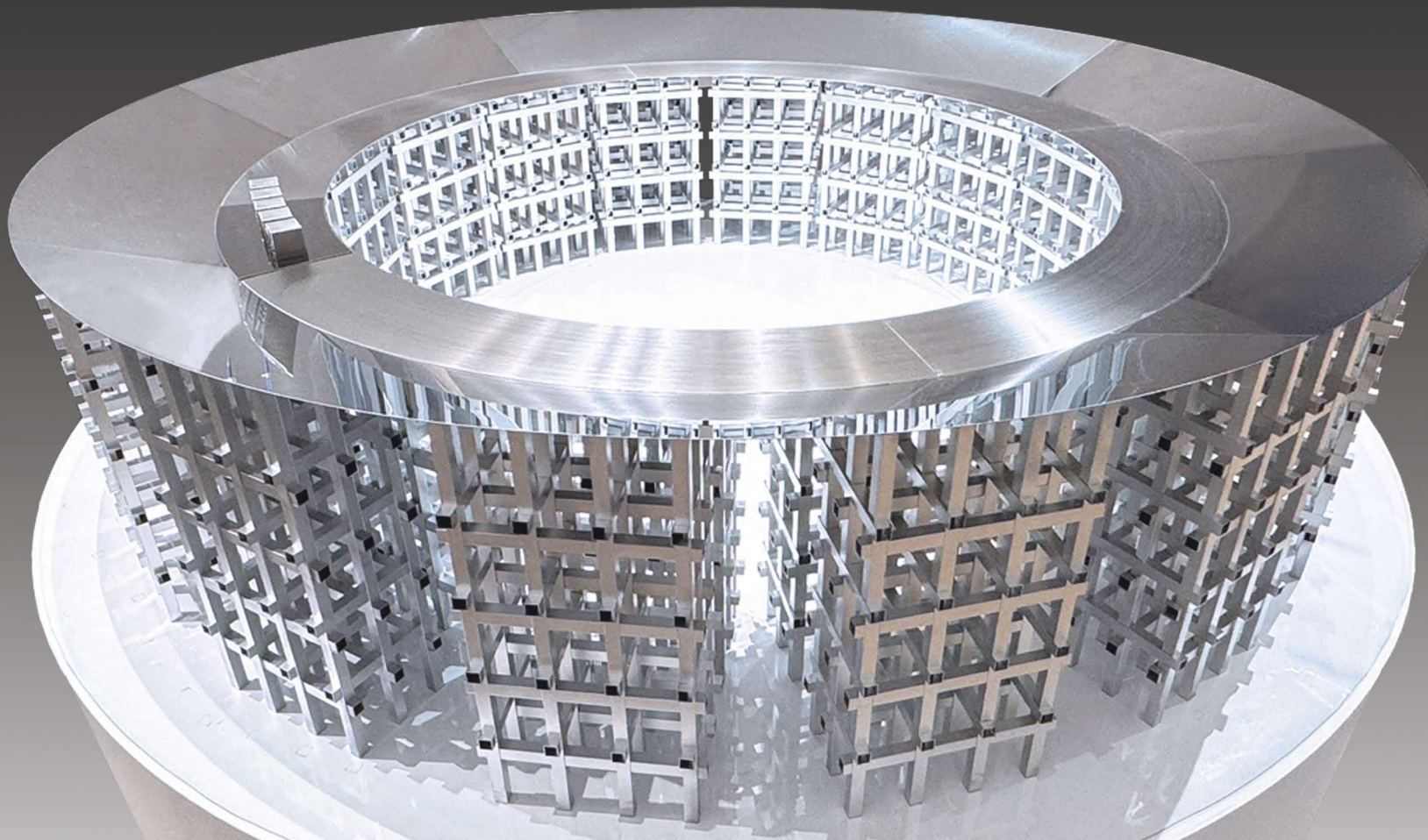




本作品は、2025年大阪・関西万博において大阪市経済戦略局が主催したイベント※1に展示された、「板金製 大屋根リング（1/300スケール）」の16分の1ピースです。技能フェアの出品規定により一部のみの展示となりましたが、全16ピースを組み合わせることで、直径約2メートルのリング状オブジェが完成します。

木造建築の特徴である格子構造や、柱と梁が織りなす「光と影の調和」、さらには構造自体が意匠として成立する美しさ——そうした日本建築の魅力を、当社の強みである曲げ加工技術を用いて、金属でどこまで表現できるかに挑戦しました。

特に「シカル曲げ（V溝加工曲げ）」の技術を駆使し、ステンレスという硬質な素材でありながら、木造建築が持つ柔らかな意匠性を再現。歪みのない精緻な曲げ角を実現することで、金属のもつ表現力の限界に迫りました。

本作品は、藤本壮介氏（会場デザインプロデューサー）の監修のもと、試行錯誤を重ねて完成に至ったものです。

万博会場では、「うわっ、大屋根リングだ！」「すごい！」「曲げだけってどういうこと！？」「溶接してないの？」「パイプじゃないの！？」「万博が終わっても展示を続けてほしい！」といった驚きと感嘆の声を多数いただきました。

私たちは、「大屋根リング」が掲げる理念『多様でありながら、ひとつ』に深く共鳴し、保有する機械と技術のすべてを注ぎ込んで、板金加工という日本のものづくり文化の一端からその理念を表現しました。

金属加工に馴染みのない一般の方々にも、「金属がここまで表情豊かになるのか」と感じていただければ、これに勝る喜びはありません。審査員の皆様をはじめ、本作品をご覧いただいたすべての方に、ものづくりの魅力を感じていただければ幸いです。

※1 大阪WEEK 秋の陣「大阪のものづくり おもしろミライ展」（2025年9月5～7日開催／来場者約1万人）

